

事務事業マネジメントシート (21年度実績と22年度計画)

22年度予算確定後 平成 22 年 月 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 月 日 作成

事務事業名		介護保険事業計画等策定事業						☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	健康福祉部	課長名	後藤博康	
	施策	16	高齢者・障がい者の自立促進と社会参加				所属課	高齢者支援課	担当者名	松本直喜	
	基本事業	50	高齢者支援体制の充実				所属班	高齢者保険班	(内線)	2112	
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	介護保険法		成果優先度評価結果	12
		30	1	5	1	10490				コスト削減優先度評価結果	-
終了、開始年度		☐ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	事業計画は、介護保険事業を円滑に実施するために市が定める計画である。3年に1度見直しを行うこととされ、この計画の中で、各年度における介護給付等対象サービスの種類ごとの量の見込み及びサービス確保のための方策等を定めるとともに、3カ年間の1号被保険者の介護保険料額を決定する。この計画策定に際して広く市民の意見を反映させるために「介護保険事業計画等策定委員」を選任し、協議いただくものである。なお、選任にあたっては学識経験者、社会福祉関係者、保険医療関係者から16名、公募により4名の方をお願いしている。 平成12年4月1日介護保険制度発足に伴い、3年に1度事業計画を作成しなければならない。第1期、(H12～14)、第2期(H15～17)第3期(H18～20)第4期(H21～23)介護保険事業計画を策定。
【業務の流れ】	①実態把握調査の実施、分析 ②計画案作成 ③策定委員会による協議 ④計画策定 ⑤議会報告
【主な予算費目】	報酬、費用弁償、役務費(切手代)
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	保険料改正に伴い、策定委員会で高額所得者の段階(第7段階)を設けたほうがよいとの意見があったので、6段階から7段階へ変更した。また、第4段階で80万円以下(特例4段階)の乗率を0.85と定めた。

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)		23年度に第5期介護保険事業計画を策定する必要があるため、本年度に実態把握調査をする予定である。	
22年度にグループホーム1箇所(定員18人)、小規模多機能型居宅介護2箇所(定員50名)、認知症対応型通所介護1箇所(定員12名)の介護施設の整備をするために、公募により募集を行い、地域密着型サービス運営委員会を3回行い事業所の選定を行った。			
④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標		(単位)	(単位)
⇒ア:協議回数		回	回
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)	
計画書		⇒ア:高齢者数	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)	
策定する		⇒ア:策定委員の同意の割合	%
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠			
意図の事業計画を策定しなければならないので、策定する仮定での策定委員さんの同意が必要のため。全員の同意があるにこしたことはないが、18人全員が同意するとは思われないので90%とした。			

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込
④ 活動指標	ア	回	0	3	1	4	1	3	1
⑤ 対象指標	ア	人	9930	10490	10700	10385	10700	11000	11300
⑥ 成果指標	ア	%	90	90	90	90	90	90	90
投資入量	事業費	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		繰入金	千円				3,403	300	2,500
		一般財源	千円	1,489	2,030	259	222		
	(A)事業費計		千円	1,489	2,030	259	222	3,403	300
		(A)のうち指定経費	千円						
		(A)のうち時間外、特勤	千円						
			千円						
人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	3	3	3	3
	延べ業務時間	時間	634	990	300	280	350	500	280
	(B)人件費計	千円	2,517	3,960	1,194	1,114	1,393	1,990	1,114
トータルコスト(A)+(B)		千円	4,006	5,990	1,453	1,336	4,796	2,290	3,614

総トータルコスト
 全体計画
 ～ 年度
 (期間限定複数年度のみ記載)
 0
 0
 0

谷志市

事務事業名	介護保険事業計画等策定事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	---------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (SEE)

*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した	☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】	☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業がないため	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】	☐ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】	☐ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

地域密着型サービス事業所の公募を行った際、事業所の数だけしか要項に記載しなかったため、単独型と併設型での応募があったことによって、選定に苦慮した。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						